

# 学友会 ニ ュ ー ス

## 理事長就任あいさつ

### 岸本忠三 (昭39)



私事、この度松本圭史前理事長の後任として社団法人医学振興銀杏会(大阪大学医学部学友会)の理事長に推挙されました。

歴史と伝統を誇る阪大医学部学友会の理事長に就任させていただきますことは大変光栄なことでありますと共に、その責任の重要性をひしひしと感じております。

歴史をひもときますと学友会は昭和十三年に設立されており、私が生まれる一年前(昭和十三年)に存在したということであり七十年に近い歴史を

持ちます。私が学友会に入会した時の理事長は大村徳三先生であり、その後藤野恒三郎先生、曲直部壽夫先生、そして松本圭史先生と受け継がれ、現在学友会は七千名を超える同窓会組織へと発展してきました。

この間、歴代理事長の御尽力により、どの大学医学部も持たないような立派な同窓会館(銀杏会館)も設立され、松本理事長の時代には理事長の御尽力により学友会は公益法人としての資格を持つ「社団法人医学振興銀杏会」に発展しました。

大阪大学医学部を卒業した者にとって、またそこで教育、研究、臨床に従事した人々にとって母校が、日本で

第218号  
社団法人  
医学振興  
銀杏会  
06(6879)3501  
(編集同人)  
荻原俊男 門田守央 長  
大湊 茂 杉本 黒木尚長  
川越裕也 武田雅俊  
山分祥興

世界で発展していくことは何よりも嬉しいことであり誇りに思うことです。大学の外で医学、医療に従事する人々にとって母校は「心のふるさと」といふことが出来ます。年齢を重ねるにつれてその気持ちは強くなります。

私は総長退任後二年ほど総

## 「白い巨塔」が「白い廃墟」にならないために

合科学技術会議議員として内閣府に勤務しましたが、東京で会議やパーティーで会った人に「私は阪大医学部出身です」と挨拶されると急速に親近感が増しました。

若き頃同大学で学んだというところは、誰にとっても大きな思い出になります。そういう意味で卒業生と大学を結びつける「接着剤」としての重要な役割を、学友会は果たしていかなければならないと思っております。

今、医学医療の世界は大きな変革の中にあります。しかし「変わらなければならぬこと」と「変わってはならないこと」があります。生物でも生命に必須の分子はネズミでも人でも殆ど変化しませんが、しかし変わるべきものが変わらぬと恐竜でも消滅します。我々はそこを間違っていないと思えます。

臨床研修制度がスタートし、卒業生の多くは外部の病院で研修を受けるようになりました。問題は初期研修後も大学に戻るといふ人が少ないということです。十年後、二十年後の医学を作っていくことに中心的な役割を果たす

かつての医局講座制にも確かに問題はありました。しかし大学で医師・医学研究者を育て、外部の関連病院と連携し医師の偏在をおこなないという重要な役割を果たしてきただことも事実です。

今その機能が失われつつあるのではないのでしょうか。産婦人科、小児科のみならず内科まで閉鎖するといふ関連病院も出ています。山崎豊子の小説のモデルにもなった「白い巨塔」は今「白い廃墟」になりつつあるという人もいます。

阪地域の医療にも大きな貢献を果たしてきた阪大医学部が「白い廃墟にならないために」卒業生の「心のふるさと」でもあるこの学友会が「大学」と、大学の外で医学、医療に従事する卒業生との「接着剤」として重要な役割を果たさなければならぬと思っております。

### <学歴・職歴>

- 昭和39年 3月 大阪大学医学部卒業
- 昭和54年 4月 大阪大学医学部教授(病理病態学)
- 昭和58年 7月 大阪大学細胞工学センター教授(免疫細胞研究部門)
- 平成3年 4月 大阪大学医学部教授(内科学第三講座)
- 平成7年 8月 大阪大学医学部長
- 平成9年 8月 大阪大学総長
- 平成16年 1月 総合科学技術会議議員
- 平成18年 7月 大阪大学大学院生命機能研究科教授
- 平成19年 4月 助千里ライフサイエンス振興財団理事長

### <受賞歴>

- 昭和63年度 朝日賞
- 平成2年 文化功勞者
- 平成3年 アメリカ科学アカデミー会員
- 平成4年 アメリカ免疫学会名誉会員
- 恩賜賞・日本学士院賞
- 平成7年 日本学士院会員
- 平成10年 文化勲章
- 平成15年 ロベルト・コッホゴールドメダル受賞
- 平成17年 ドイツ科学アカデミーレオポルディナ会員

理事長退任にあたって

松本圭史 (昭28)



この十二年間、会員の皆様  
に非常にお世話になり、また  
ご支援をいただき、任期を大  
過なく勤めることができました。  
まずは深く感謝し御礼を  
申し上げます。

この十二年間、会員の皆様  
に非常にお世話になり、また  
ご支援をいただき、任期を大  
過なく勤めることができました。  
まずは深く感謝し御礼を  
申し上げます。

や日本の医療を支えておられ  
る先生方が多数おられま  
す。また医療行政の立場で、  
種々医師会の中核として活躍  
しておられる先生方もおられ  
ます。まさに多種の職種、立  
場での活躍の会員のための学  
友会ですから、これら会員の  
コミュニケーションになるだ  
けはくお役にたてるように努  
力しました。名簿編集委員会  
と事務局職員の献身的努力に  
よりできあがっている三年ご  
との学友会名簿は、その代表  
的存在と考えます。

政府の法人をできるだけ削  
減するの方針のもとに、社  
団法人である本会も平成十年  
頃から再審査をうけました。  
大部分の会員のご希望をうけ  
て、公益事業の大幅な増大(会  
費の三分の一の約八百万円)  
と会の名称変更【医学振興銀  
杏会(大阪大学医学部学友  
会)】等を実行して法人の存  
続に全力をあげ、平成十三年  
十月に社団法人としての継続  
が認められました。この時に  
当時の大阪大学総長(新理事  
長)の岸本忠三先生(昭39)

大阪大学は法人化されてそ  
の改革は年々進行し、また、  
大阪大学を統合する大阪大学  
同窓会連合会も設立されまし  
た。古い伝統を誇る阪大医学  
部学友会も変革の時を迎えて  
いると考えられます。この時  
に、阪大総長として大阪大学  
の統轄、内閣府総合科学技術  
会議議員として日本の科学技  
術の指導をされた経験を有し  
ておられる岸本先生を新理事  
長にお迎えできることは、学  
友会にとっても素晴らしい  
ことです。先生と新役員の先  
生方を中心として、わが学友  
会がさらに大きく飛躍するこ  
とを祈ってやみません。

最後に、至らぬ私に名誉理  
事長の栄誉を賜りましたこと  
に感謝します。  
会員の先生方、有難うござ  
いました。

偉大な理事長として、銀杏  
会館を竣工され、また現在の  
理事会の大意を確立された故  
曲直部壽夫先生のご偉業を、  
先生が健康を害されたために  
継承することになりましたこ  
とは、まさに僥倖至極なこ  
とでした。

注がれましたが、会員相互の  
コミュニケーションを充分に  
とることを学友会の発展の  
ためには大変重要なことであ  
ると考えました。医学部同窓  
会では、大学での活躍、医学

コミュニケーションの一環  
として藤野先生時代に発定し  
た「学友会・病院長懇談会  
(現シンポジウム・地域医  
療の課題とその対策)」は、  
その後も期待をもって続行さ  
れていますが、その時々の中  
要なテーマを議論すると共  
に、会員相互、会員と大学と  
のコミュニケーションという  
意味でもますます活用されて  
います。また、学友会各支部  
会、各クラス会には、招待を  
受けた場合は可能な限り出席  
し、各会員との交流、懇談を  
楽しませていただきました。

学友会本部、大学と各支部と  
の相互理解を深めるように努  
力しました。  
学友会本部、大学と各支部と  
の相互理解を深めるように努  
力しました。

研究活動が中心に  
なりやすいもので  
す。学友会には、  
しかし、医療第一  
線の診療所や種々  
の公・私立病院で  
の活躍で地域医療

その後も期待をもって続行さ  
れていますが、その時々の中  
要なテーマを議論すると共  
に、会員相互、会員と大学と  
のコミュニケーションという  
意味でもますます活用されて  
います。また、学友会各支部  
会、各クラス会には、招待を  
受けた場合は可能な限り出席  
し、各会員との交流、懇談を  
楽しませていただきました。

学友会本部、大学と各支部と  
の相互理解を深めるように努  
力しました。

大阪大学は法人化されてそ  
の改革は年々進行し、また、  
大阪大学を統合する大阪大学  
同窓会連合会も設立されまし  
た。古い伝統を誇る阪大医学  
部学友会も変革の時を迎えて  
いると考えられます。この時  
に、阪大総長として大阪大学  
の統轄、内閣府総合科学技術  
会議議員として日本の科学技  
術の指導をされた経験を有し  
ておられる岸本先生を新理事  
長にお迎えできることは、学  
友会にとっても素晴らしい  
ことです。先生と新役員の先  
生方を中心として、わが学友  
会がさらに大きく飛躍するこ  
とを祈ってやみません。

最後に、至らぬ私に名誉理  
事長の栄誉を賜りましたこと  
に感謝します。  
会員の先生方、有難うござ  
いました。

最後に、至らぬ私に名誉理  
事長の栄誉を賜りましたこと  
に感謝します。  
会員の先生方、有難うござ  
いました。

研究助成の公募

当会では、今年度も公益事業の一環として、研究助成を行います。  
対象 地域医療に貢献している病院・施設で行われている疾病の診断・治療等に関する研究を  
している若手研究者(40歳未満)  
募集期間 9月1日～11月30日  
助成額 1件50万円程度  
助成件数 4件  
連絡先 (FAX) 06-6879-3503(メール) office@ichou.med.osaka-u.ac.jp

第19回シンポジウム 『地域医療の課題とその対策』開催のご案内

開催日 平成19年11月1日(木)午後3時開会  
会場 銀杏会館3階 阪急・三和ホール  
基調講演 井上通敏先生(地方独立行政法人大阪府立病院機構 理事長)  
演題 「医療の集約化は必然か、どのような力で推進するのか」  
懇親会 銀杏会館3階 大会議室

医療は公共性のきわめて高い仕事であるから、医師の職業倫理と行政的権力によって社会のニーズ  
に答える医療システムを築くことが基本である。しかし、情報化や市場原理で動いている今の自由  
主義社会から医療だけを切り離して患者や医療者をコントロールし、また医学・医療の進歩を保証す  
ることができるのか、知恵を試されているのであろう。

※参加ご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

# 19年度 医学振興銀杏会総会開く

平成十九年度の医学振興銀杏会総会、五月十九日大阪にて開催された。開催に先立ち銀杏会役員



研究助成・奨学金受賞者一同と松本理事長

が集まり佐多・楠本両博士の胸像に献花を行い、阿部源三郎監事による記念撮影が行われた。十二時から昼食を挟んで各地区支部長、級会・支部・学内の評議員が大会議室に集まりの合同で会合を行った。北は東京・石川から、西は徳島・広島から参加者があり各地の活動が報告された。各地区共に支部長の高齢化が進み、また各地の大学や関連病院に阪大卒業者がいなくなる傾向があり、医学・歯学また全学部の卒業生が共同で学友会が開催されつつあることが報告された。

総会は定刻に早石雅有副理事長の司会で進められた。まず松本圭史理事長の今年の全体の事業報告を兼ねた挨拶があった。会員が七千三百二十三名になったこと、本日の出席者と委任状をあわせると約五二・六％の参加を得ているので総会は成立したことが報告され、叙勲等表彰者二十一名に対する慶祝の発表、物故者百十五名の御霊に対しては黙祷をこぼした。

総会議事は黒木尚長理事の詳しい報告があり決算、予算共に可決された。続いて六月二十八日にて任期満了となる現役員にかわって、役員改選基準に基づき選出された新役員候補が全員承認された。また永年にわたるご功績を称えた名誉会員十名の推薦が承認され、続いて門田守人副理事長よりの推薦された松本圭史理事長の名譽理事長への就任が承認された。松本圭史理事長より名誉会員への推薦状贈呈があり、六月二十八日を以って理事長を退任される松本圭史理事長には、次期理事を代表して岸本忠三教授が贈呈を行った。次に地域医療に関する研究助成金の採択者五名と海外留学助成金の採択者六名、学友会奨学金の採択者二十名の学生と院生の授与式が行われた。その後、理事長を囲んで記念撮影が行われた。講演は審良静男教授が「自然免疫による病原体認識」と題して、炎症性サイトカインの最新のメカニズムについての講義した。学内現状報告では遠山正彌医学系研究科長が医学部について、大和谷厚保健学科長が保健学科について、林紀夫病院長がこの度の診療

勇先生



当日ご出席の名誉会員一同

報酬改定で阪大病院も制度にあわせて看護体制を見直し看護部の大幅な増員を行ったことを報告した。この後、木下近藤壽人命機能研究科長がそれぞれの現状を報告し、定刻に終了した。

### 平成18年度秋の叙勲および受章

瑞宝重光章 福西 亮先生(昭28)  
 瑞宝中綬章 塩田 重利先生(昭26)  
 瑞宝小綬章 進士 義剛先生(昭30)  
 瑞宝小綬章 矢内 純吉先生(昭35)  
 紫綬褒章 松澤 佑次先生(昭41)  
 紫綬褒章 中村 敏一先生(分再生)

### 平成19年度春の叙勲および受章

瑞宝重光章 岩田平太郎先生(昭26)  
 瑞宝中綬章 高部福太郎先生(昭27)  
 瑞宝中綬章 東野 一彌先生(昭29)  
 瑞宝小綬章 中神 一雄先生(昭23)  
 瑞宝小綬章 岡田 利彦先生(昭24)  
 旭日双光章 石井 淳先生(昭17)  
 旭日双光章 武田 覺先生(昭29)  
 旭日双光章 徳永 昭夫先生(昭29)  
 紫綬褒章 林崎 良英先生(昭57)

### 受 賞

武田医学賞 北村惣一郎先生(昭40)  
 日本医師会最高優功賞 長谷川 進先生(昭34)  
 日本医師会最高優功賞 西岡 清先生(昭39)  
 日本医師会最高優功賞 多田羅浩三先生(昭41)  
 日本医師会最高優功賞 大隈 義彦先生(心呼外)  
 恩賜賞・日本学士院賞 審良 静男先生(昭52)  
 世界禁煙デー賞 瀬尾 攝先生(昭28)

### 新役員(2007.6.29より2年間 ○は新任)

役 職	卒 年	氏 名
理 事 長	昭39	岸本 忠三○
副理事長	昭36	伏見 尚子○
副理事長	昭42	早石 雅宥
副理事長	昭45	門田 守人
理 事	昭33	松田 守弘
理 事	昭41	越智 隆弘○
理 事	昭42	山西 弘一○
理 事	関西大昭42	小原 清
理 事	昭43	荻原 俊男
理 事	昭49	露口 雄一
理 事	平09	藤本 裕司
理 事	昭51	目連 晴哉
理 事	昭53	三木 善次
理 事	昭55	富田 尚裕
理 事	昭57	馬場 雄造
理 事	昭60	黒木 尚長
理 事	気象大平04	桑田 成規
理 事	平05	渡邊 幹夫
理 事	平05	三好 智満
理 事	平17	森口 彩○
監 事	昭17専	津田 賢三
監 事	昭18	阿部源三郎
監 事	昭42	入野 忠芳○
監 事	昭43	宮武 邦夫
監 事	昭56	山口 時雄
役職による理事	昭47	遠山 正彌
役職による理事	昭47	林 紀夫

### 新名誉会員

伊藤利根太郎先生(昭23) ..... 橋本 一成先生(昭28) ..... 岡田 義昭先生(昭36)  
 村尾 達雄先生(昭23専) ..... 松本 圭史先生(昭28)○ ..... 井上 通敏先生(昭37)  
 坂本 幸哉先生(昭24) ..... 園田 孝夫先生(昭31) .....  
 北嶋 省吾先生(昭26専) ..... 江部 高廣先生(昭35) ..... (○は名誉理事長)

### 話題

リーグ昇格が懸かっている自校の新設棒球クラブを応援すべく鷺洲に向かった。大阪市がオリンピック招致を見越して埋め立てた人工島である。阪神高速湾岸線からアラビアンナイト風の金ピカな塔が見える。下水処理の際に出る汚泥処理場と知った。設計料の無駄遣いが批判されたこともある。これらの噂はともかく、目標とするホッケー場はすぐ隣にあった。対戦相手校に「はしか患者が出たので、日程が変更になってしまった。そのかわり偶然にも三部の阪大対二部の松山大学の試合を観戦できた。結果はフォアメーションの優大湊 茂(昭45)

れた母校が三対一の勝利を得た。チャンスには思わず大声で応援していた。チャリーダーが四人、学生服の五人の応援団がいて驚いた。遠征の松山は応援ゼロで気の毒だった。ここには純粹にスポーツに興じる若者達(サポーターも含めて)がいて監督コーチが散水や会場整理にあたるなど皆で丸となっていた。陽射がきつく親父はタオルで汗を拭いた。この春、金銭に無縁と思われていた学生野球に裏金問題が浮上し、高野連は面子にこだわるあまり現場無視の処分を発表した。挙句の果ては「各校の裁量で配慮」だ。役員達よ、現場無知を自覚し、早朝練習の散水を手伝うべし。

### ハンカチ親父棒球応援

一般会計収支計算書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

作成日 平成19年4月1日

Main financial statement table with columns for '勘定科目' (Account), '18年度' (FY18), '18年度' (FY18), and '差異' (Difference). It details income and expenses across various categories like 'I 収入の部' and 'II 支出の部'.

特別会計収支計算書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

作成日 平成19年4月1日

収支計算書総括表

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

作成日 平成19年4月1日

Special Accounting Income Statement table with columns for '勘定科目' (Account), '18年度' (FY18), '18年度' (FY18), and '増減' (Increase/Decrease). It breaks down specific income and expenses.

Summary Statement table with columns for '勘定科目' (Account), '一般会計' (General Accounting), '特別会計' (Special Accounting), '会計区分間取引' (Inter-accounting transactions), and '合計' (Total). It provides a consolidated view of the financial data.

# 「第27回日本医学学会総会」を終えて

## 多彩なプログラムと展示が好評

一九八三年以来、大阪ではと医療の原点「いのち・ひと」二十四年ぶりとなる第二十七・「夢」をテーマとして、平

八日(日)に開催されました。8日(日)に開催されました。学術講演プログラムでは、small but excellent 医療関係者と市民合わせて約三万名の方々からの回答を得、その結果をもとに議論で「いのち・ひと・夢」をテーマを積極的に今日の医療に関する横断的の今日

「いのち・ひと・夢」をテーマを積極的に今日の医療に関する横断的の今日、現在、問題となっている医療制度や倫理的問題、子供の心のケアや介護医療など、多彩で社会的インパクトの大きなプログラムが構成されました。各会場とも多くの参加者が熱心に聴講されていたのが印象的でした。

岸本忠三会頭が特に力を注いだ最終日の特別シンポジウム「今日の医学教育、医療制度の問題点とその改革」医学、医療制度の理想像へ向け「提言」では、医学界、行政、関係企業のトップが一堂に会して討議がなされました。事前に十一項目からなる

「日本の医療事情に関するアンケート」調査をおこない、医療関係者と市民合わせて約三万名の方々からの回答を得、その結果をもとに議論で「いのち・ひと・夢」をテーマを積極的に今日の医療に関する横断的の今日

「いのち・ひと・夢」をテーマを積極的に今日の医療に関する横断的の今日、現在、問題となっている医療制度や倫理的問題、子供の心のケアや介護医療など、多彩で社会的インパクトの大きなプログラムが構成されました。各会場とも多くの参加者が熱心に聴講されていたのが印象的でした。

岸本忠三会頭が特に力を注いだ最終日の特別シンポジウム「今日の医学教育、医療制度の問題点とその改革」医学、医療制度の理想像へ向け「提言」では、医学界、行政、関係企業のトップが一堂に会して討議がなされました。事前に十一項目からなる

「日本の医療事情に関するアンケート」調査をおこない、医療関係者と市民合わせて約三万名の方々からの回答を得、その結果をもとに議論で「いのち・ひと・夢」をテーマを積極的に今日の医療に関する横断的の今日



最先端の手術室見学には一般市民がつめかけた

のステージ企画を行い、一を構え、準備・運営をおこな部の会場では入場制限をするほどの盛況ぶりでした。学術展示は「いのち・ひと・夢」をテーマを積極的に今日の医療に関する横断的の今日、現在、問題となっている医療制度や倫理的問題、子供の心のケアや介護医療など、多彩で社会的インパクトの大きなプログラムが構成されました。各会場とも多くの参加者が熱心に聴講されていたのが印象的でした。

準備委員長

堀 正一(昭45)

# トピックス

現在免疫学の世界では「自然免疫」が大きなトピックとなっていて、それに多大な貢献をしている審良静男先生（微生物病研究所教授）が大変注目されています。

「免疫」とはその言葉が示すとおり、疫病（感染症）を免れるためのシステムで、二つの大きな柱、「自然免疫」と「獲得免疫系」から成り立っています。そして感染病原体の生体内侵入を非自己として感知し、排除するための反応を引き起こします。二十世紀後半まで、非自己を感知する免疫系は、リンパ球が主役をつとめる獲得免疫系が主な研究対象で、抗体やT細胞受容体などの抗原受容体が非自己を「抗原」として認識する精巧な非自己認識システムが明らかになっていました。一方、マクロファージや樹状細胞などの貪食細胞が担当する自然免疫系は、感染病原体の貪食が主な作用で、非自己認識シス

テムは持っているように考えられていました。しかし、Toll様受容体の機能解析により、自然免疫系が非自己そのものである感染病原体特有の構造物を特異的に認識することが明らかになり、自然免疫系にも非自己認識システムが存在し、しかもToll様受容体による感染病原体の認識により、自然免疫系の活性化のみならず、獲得免疫系の活性化をも制御することが明らかになってきました。これにより、免疫学の研究対象が獲得免疫系から自然免疫系に大きくシフトしてきました。

## 自然免疫

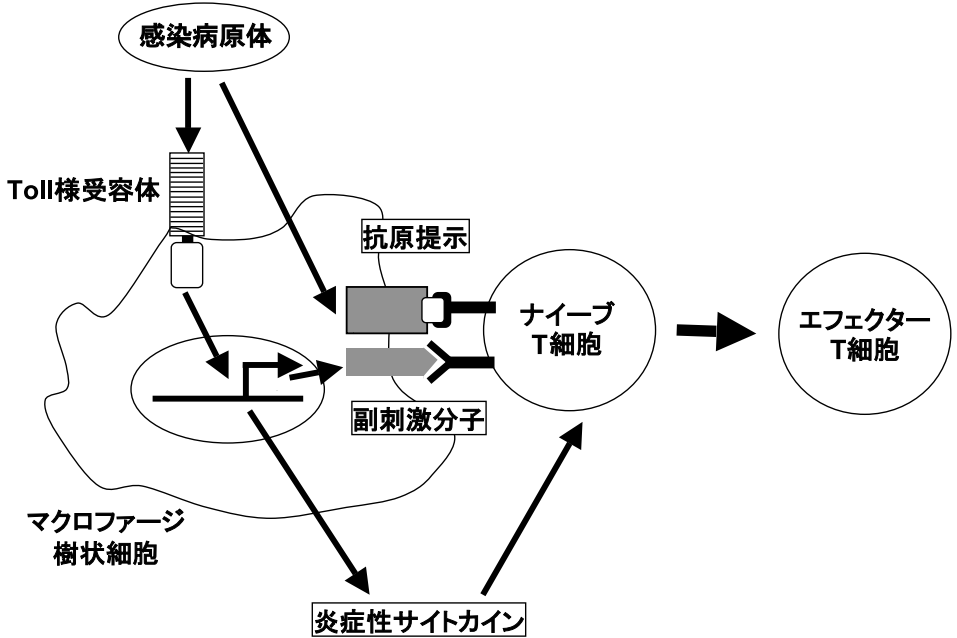
患のなかには、自然免疫系の異常で発症する疾患がいくつかあるものと考えられます。実際、全身性エリテマトーデスや慢性炎症性腸疾患などの原因に、Toll様受容体を介した自然免疫系の過度の活性化が関与していることが示唆されています。

審良静男先生の研究室で、Toll様受容体の機能解析に携わり、一年半前に九州大学で研究室を開いてから、自然免疫系の活性を制御することに より免疫疾患を治療する基礎的基盤を築くことを大きな目標に研究を続けております。本年四月に大阪大学医学部に戻ってきてからも、引き続き慢性炎症性腸疾患をひとつのモデルに、同じ夢を追いかけております。学友会の皆様のご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

免疫の異常で発症する疾患の中に、まだその原因がわかっていない難病がいくつもあります。これまで「これら疾患の病因を探るべく獲得免疫系を中心に研究が行われてきました」が、またその多くは不明のままです。このように疾患

免疫制御学

竹田 潔(平4)



自然免疫系

獲得免疫系

認識する非自己	感染病原体に特有の構造	抗原
非自己認識受容体	Toll様受容体	抗原受容体(抗体、T細胞受容体)

# 提言

病院勤務医の過重労働が取り上げられてい

## 病院勤務医の過重労働

会の調査、いずれでも病院勤務医の長時間、過重労働は明らかである。今から三十年、四十年前は、現在と同様の労働時間でも、大半の医師は不満を言わず、働いていた様に思う。それは、医師の立場が現在とは違っていて、また、漠然としたものではあった

が、将来に対する希望を持たない時代であったのかも知れない。現在は、長時間労働に加えて、当直(実質は当直ではなく、時間外勤務)、クレーム加するが、その割には勤務医

が、将来に対する希望を持たず、厳しい状況になっていく。患者数、医師数の長期予測では、今後、入院患者数は増え、時間外勤務の増加が懸念される。勤務医一人あたりの業務量は減少しないことになる。自治体病院協議会のアンケート調査において、勤務医が

免除などが挙げられている。病院勤務医が充足されない状態が続けば、勤務医の要望は果たされず、過重労働は続くことになる。別の対策が必要である。医療の機能分担を進め、クレーム対応、医事紛争

め、病院は外来機能を出せるだけ縮小し、入院医療に重点を置くのも一方法である。しかし、現在の患者のフリーアクセスは制限されることになり、病院の収入が確保されるよう入院医療の収益の拡大が必要となる。病院の集約化も言われている。集約化を行えば、そこに患者が集中し、同じ結果となるのではないかと、

長時間労働の解消には勤務医、特に中堅層医師の増加が必要であるが、余程思い切った対策を考えないと、難しいのではなからうか。 木田正太郎(昭45)



…その119

医療事故が社会問題として注目されたのは一九九九年一月の横浜市大の患者取り違え事件と、同年二月に発生した都立広尾病院の消毒薬点滴事件であった。これ以後、医療事故はマスコミ報道の絶好のニュースト

ち上げ、機器・設備の改善、安全研修などに感染制御等なすべき作業は多く、しかも京大今中教授の試算によると、五〇〇床規模の病院で医療安全にかかるコストは年間一億円以上という。

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

認識せず、一方的な表現で周囲に多大な悪影響を及ぼし、時には福島県立天野病院事件や町立大淀病院事件の如く、医療そのものに関わる大きな社会問題に発展することもあ

る。わが国の医療訴訟は、新規受件数でみると平成八年度には五七五件であったが、平成十六年度には一一〇件と倍増し、訴訟にまで至らな

る事態を見逃せない。以前の読売新聞コラムで中教審会長山崎正和氏は「いじめ問題に対する教育現場での生徒の親と先生との関係を論じ、教師の権威の失墜を憂い、現代社会の素人優位、専門性軽視の風潮が想像以上に根深いものであ

## 医療事故と医療過誤

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

医療事故は医療遂行上に起きた事故すべての事象であり、医療過誤とは主に医療従事者等による人または物に対する過失であって、いわゆる医療ミスがこれに相当する。両者の関係を峻別することは極めて重要であるが、マスコミ報道ではこれらを殆ど

市立普屋病院院長 姫野誠一(昭43)